

# 野鳥だより

—北海道—

ISSN 0910-2396

北海道野鳥だより第188号

編集・発行 北海道野鳥愛護会

発行年月日 平成29年6月21日

ヤマセミ



2017. 2. 6 札幌市南区

撮影者 今堀 魁 人 (札幌市南区)



も く じ

いるのか？いないのか？－北海道でのチュウジシギとハリオシギ－  
 先崎理之（北広島市）・渡辺義昭（網走市）・小田谷嘉弥（千葉県我孫子市）  
 ..... 2

野鳥情報コーナー  
 コムケ湖に出現したクロヅルとソリハシセイタカシギ  
 もんべつかいはつくらぶ 大館 和広 ..... 5

ノドグロツグミを観察  
 日本野鳥の会札幌支部 住友 順子 ..... 6

亜種コシジロオオソリハシシギか？  
 札幌市中央区 大町 正弘 ..... 6

札幌市西区でミゾゴイを観察 札幌市西区 石田 卓也 ..... 7

表紙の鳥（ヤマセミ） 札幌市南区 今堀 魁人 ..... 7

2016年度 北海道野鳥愛護会探鳥会記録（2016.4～2017.3） ..... 8

平成29年度 総会報告 ..... 11

探鳥会ほうこく ..... 13

探鳥会あんない ..... 16

鳥民だより ..... 16

いるのか？いないのか？  
 — 北海道でのチュウジシギとハリオシギ —

先崎理之（北広島市）・渡辺義昭（網走市）・小田谷嘉弥（千葉県我孫子市）

野外識別は野鳥観察の醍醐味の一つです。カモメ類、ムシクイ類…名だたる難識別鳥の中でも、最たるそれがジシギ類（オオジシギ、チュウジシギ、ハリオシギ、タシギ、アオシギの5種）です。私たち道民にとっては原野でにぎやかな求愛飛翔を繰り広げるオオジシギは身近な存在でしょう。また、旅鳥のタシギや冬鳥のアオシギを見たことのある方もいるのではないのでしょうか。一方で、残る2種（ハリオシギとチュウジシギ）を道内でご覧になったことのある方はいるのでしょうか。そもそも、この2種は野外で他種とは識別できるのでしょうか？ 北海道からの記録はあるのでしょうか？ そこで、今回はジシギ類の識別の簡単な概略を紹介し、北海道でのハリオシギとチュウジシギ

の記録を整理したいと思います。

まずは難しい識別のはなし

かつては、ジシギ類の識別は尾羽の枚数を数えないと不可能（＝野外識別は無理）とさえ考えられていました。しかし近年、野外観察と標識調査の双方のデータが蓄積されてきたことにより、全身の体形・色彩や尾羽の形状・色彩から、野外でもある程度は識別可能らしいことが分かってきました。各種の典型的な特徴を表1に、オオジシギ、チュウジシギ、ハリオシギの重要な識別点である尾羽の画像を写真1にまとめました。

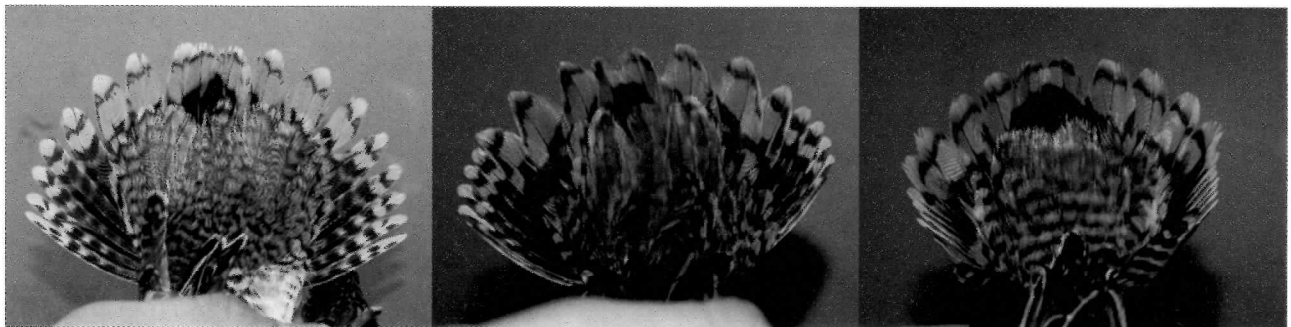


写真1. 左からオオジシギ幼鳥（8月茨城県）、チュウジシギ幼鳥（9月千葉県）、ハリオシギ幼鳥（10月茨城県）の尾羽。標識調査中に撮影された画像。野外観察では、尾羽枚数を数えるのは難しいので、種ごとの色彩と形状に着目したい。

表1. ジシギ類各種の主な特徴 (アオシギを除く)

区分 種名	体形・色彩	顔つき	次列風切後縁	下雨覆	翼端からの 尾の突出	尾羽枚数	外側尾羽の形状・色彩
オオジシギ	大きい 白っぽい	面長で白色部が広い 頭に対して目は小さい 嘴は基部が太く長い	灰褐色	白黒の横斑	太く長い	14~18	やや広く先端が丸い 白色部が多い
チュウジシギ	やや華奢 茶色っぽい	茶色い 目はやや大きい 嘴はやや短い	灰褐色	白黒の横斑	やや短い	18~22	やや狭く細い 黒色部が多い
ハリオシギ	華奢 各羽の赤み が強い	白色部は広い 目が大きい 嘴は短い	灰褐色	白黒の横斑	短い	22~28	明瞭に細くて短い 黒色部が多い
タシギ	小さく華奢 成鳥の肩羽外弁 は白線が太い	目先の過眼線が太い 嘴は細くて長い	明瞭な白線	白色部が広い	長い	12~18	広い (中央尾羽と同程度) 最外側のみが白っぽい

北海道でのハリオシギとチュウジシギの記録

さて、ようやく記録の話に移ります。日本鳥類目録改訂第7版(日本鳥学会 2012)と北海道鳥類目録(藤巻 2012)は、両種の北海道における渡来状況を「まれな旅鳥」としています。しかし、具体的な記録としては、1996年5月11日の羅臼岬町のハリオシギの記録を上げてに過ぎません。また、新訂北海道野鳥図鑑(河井ほか 2013)にも両種の記録は掲載されていません。そこで今回、両種について、山階鳥類研究所による標識調査での記録と私たちや知人による確実性の高い観察記録をまとめてみましたので、ここに紹介したいと思います。

ハリオシギ

1. 標識調査での記録 (山階鳥類研究所・標識調査データベース)

2015年までに以下の6例の記録があります：羅臼町湯野沢町(1996年5月12日)・焼尻島(1997年5月5日および5月10日)・苫小牧市弁天沼(2003年8月17日)・室蘭市母恋町地球岬(2007年9月19日)・網走市濤沸湖丸万川(2015年9月2日)。このうち、弁天沼、濤沸湖の記録については、捕獲時の状況、識別の過程を以下に紹介します。

・苫小牧市弁天沼 2003年8月17日(浦達也氏 私信)  
オオジシギの標識調査中に、幼鳥が捕獲・撮影されました。計測値・尾羽枚数・色彩から同定されました。

・網走市濤沸湖 2015年9月2日

9:30頃、補修中に開いていた網で捕獲されました。周辺にはオオジシギ1、タシギ3とタカブシギ22、コアオアシギ1などが滞在していました。本個体は幼鳥で、色彩

はチュウジシギに似ている個体ですが、計測値、尾羽の形状から本種と同定されました。



写真2. ハリオシギ幼鳥(性不明) 2015. 9. 2  
網走市濤沸湖丸万川

計測値は以下の通り：露出嘴峰長：67.1mm,  
跗蹠長：34.3mm, 自然翼長：128mm, 尾長：45.1mm,  
体重：103.98g.

2. 野外観察記録

写真を伴う記録として、以下の3例が集まりました：天売島(2011年5月17日および2016年5月20日前後)・稚内市大沼(2016年5月12日)。これらの個体は、大きな目、短めの嘴、寸詰まりの体形、頭部、肩羽、三列風切などが赤褐色の斑で覆われていることからハリオシギと考えられます。なお、これらの個体は、現在の知見ではハリオシギと考えられるものの、チュウジシギ夏羽の変異が完全に理解されておらず、今後の検討の余地が残される点から(推定)という表現を残したいと思います。



写真3. 推定ハリオシギ夏羽 2011. 5. 17 天売島  
写真の個体は北部・観音岬で観察。2016年には天売灯台  
(2羽)と富磯(1羽)で島民のバードウォッチャーによ  
り撮影されている(誌面の都合で画像割愛)。



写真4. 推定ハリオシギ夏羽 2016. 5. 12  
稚内市大沼(先崎啓究氏提供)  
特徴は写真3の個体に似る。全身の赤みが強い。

## チュウジシギ

### 1. 標識調査での記録(山階鳥類研究所・標識調査データ ベース)

2015年までに以下の6例の記録があります:紋別市小向  
共和コムケ湖(1995年9月19日)・苫小牧市植苗ウトナイ  
湖(1996年8月28日)・釧路市春採湖(1998年9月12日お  
よび9月15日)・福島町千軒(1999年10月15日)・苫小牧  
市弁天沼(2004年9月16日)。

### 2. 野外観察記録

写真を伴う記録として、以下の3例の記録があります:  
北斗市清川(2010年8月25日および9月8日)・七飯町仁  
山(2011年9月11日)。これらは、オオジシギより嘴や尾  
羽が短く、全身の黒みが強いこと、雨覆や三列風切の黒い  
横斑が太いこと、外側尾羽が細くて黒かったことからチュ  
ウジシギと同定されました。なお、著者の先崎は、2010年  
および2011年の8月下旬から9月中旬にかけて、北斗市か  
ら七飯町にかけての水田地帯で、他にも未撮影ながらチュ  
ウジシギと思われる個体を複数観察しています。



写真5. チュウジシギ成鳥 2010. 8. 25 北斗市清川  
雨覆に摩耗した夏羽が残ることから成鳥。同所で9月8日  
に観察された個体(誌面の都合で画像割愛)は、雨覆に幼  
羽が残る幼鳥だった。



写真6. チュウジシギ 2011. 9. 11 七飯町仁山  
水田のあぜ道で観察・撮影。特徴は写真5の個体に似る。

## おわりに

以上のように、道内においてハリオシギ、チュウジシギ  
の確実な記録がそれなりにあることが分かりました。ハリ  
オシギは春の日本海側を少数が通過しているようです。秋  
の渡来傾向ははっきりしませんが、全道的に迷行の可能性  
があるかもしれません。チュウジシギは、秋季には少数が  
道南の水田地帯を定期的に通過していると考えています。  
春の確実な記録はまだありませんが、5月の天売島では  
チュウジシギらしいジシギを観察しており、ハリオシギ同  
様日本海側では観察可能性があるかもしれません。今のと  
ころ、私たちは、一般に思われているよりは、両種ともに  
北海道を通過していると考えています。皆さんが意識的に  
観察することで、より具体的な両種の渡来状況が明らか  
になるかもしれません。この秋は、是非、この2種の発見に  
トライしてみたいかがでしょうか。

謝辞

山階鳥類研究所にはチュウジシギとハリオシギの標識記録の情報(データ利用許可番号:山階保全第29-32号)を、浦達也氏には弁天沼のハリオシギの情報を、先崎啓究氏には稚内市でのハリオシギの記録を、青塚松寿氏には天売島でのハリオシギの記録をそれぞれご提供いただきました。感謝申し上げます。

参考文献

藤巻裕蔵 2012. 北海道鳥類目録改訂4版. 極東鳥類研究会. 美唄.  
 河井大輔・川崎康弘・島田明英・諸橋淳 2013. 新訂北海道野鳥図鑑. 亜璃西社. 札幌.  
 日本鳥学会 2012. 日本鳥類目録改訂第7版. 日本鳥学会. 三田.

野鳥  
 情報コーナー

コムケ湖に出現した  
 クロヅルとソリハシセイタカシギ  
 もんべつかいはつくらぶ 大館 和広

はじめに

コムケ湖は宗谷岬から知床岬まで続くオホーツク海岸のほぼ中央、紋別市にある湖で、アイヌ語地名で曲がり沼を意味する。3つに分かれた水域の面積は5km<sup>2</sup>だが、湖岸は複雑に入り組んで(曲がって)おり、延長は22kmもある。水深はほぼ全域で浅く、人工湖口により海とつながっているため潮汐の影響を受け、広く干潟が発達する。3つに分かれた水域は北西から、共和A、共和B、大沼と呼んで筆者らは区別している。コムケ湖から南東には長径2kmほどの楕円形で淡水のシブノツナイ湖がある。筆者はコムケ湖とシブノツナイ湖を合わせて一帯の自然環境ととらえている。

クロヅルの記録

2017年5月6日、6:00頃、シブノツナイ湖の南側湖岸ヨシ原の中にクロヅルを発見した。この時は2羽のタンチョウと一緒にだったので大きさや色彩からすぐにクロヅル(成幼雌雄不明)と識別できた。3羽はヨシ原を歩き、特に目立った行動(追い払いや鳴き合いなど)はなく、クロヅルの声も聴けなかった。

6:05頃クロヅルはタンチョウ1羽(4歳の亜成鳥と思われる雌雄は不明)とコムケ湖方向に飛び去った。残ったタンチョウ(成鳥)はこの年シブノツナイ湖に居ついていた個体ようだった。

7:20頃、クロヅルはコムケ湖大沼の南方の秋平川河口付近にタンチョウ2羽(成鳥と4歳の亜成鳥)と現れたのをキャンプ場前の駐車場から観察した。

7:40頃までにキャンプ場前の干潟まで移動して来ていたが(写真1)、3羽は湖口方向に飛び去り所在不明となった。コムケ湖に出現したタンチョウ2羽のうち亜成鳥はシブノツナイ湖で観察した同一個体と思われたが、成鳥はシ



写真1. クロヅル(左)とタンチョウ  
 2017. 5. 6 コムケ湖 キャンプ場前

ブノツナイ湖に居ついている個体かどうかは分らなかった。このタンチョウ成鳥は、亜成鳥を追い払うような行動を見せたが、執拗に追い払うということはなかった。

筆者の観察は5月6日の6:00~7:40ころまでであるが、未確認情報によると、5月4日にコムケ湖(観察場所の詳細不明)でタンチョウ1羽と共に見られている。また5月7日も観察した人がいるようである。クロヅルの記録はコムケ湖初記録。

ソリハシセイタカシギの記録

2017年5月4日、コムケの会会員から「この鳥は」と尋ねられた映像がソリハシセイタカシギだった。当日の午前共和Aで撮影したが、すぐに不明になったとのことだった。



写真2. ソリハシセイタカシギ  
 2017. 5. 4 コムケ湖 秋平川河口

筆者は当日の午後、秋平川河口で発見した(写真2)。ソリハシセイタカシギの警戒心は薄く、十分近くで観察することができた。この個体の性別と成幼は不明であるが、目の上下に白色部があり、「BIRD of EUROPE」では白いアイリングを持つ個体をメスとしている。羽色は全体的に白と黒であり、目立ったバフ色などはなく、成鳥に近いと思われたが、尾羽がわずかに褐色に見えた。ソリハシセイタカシギは浅い水域で嘴を左右に振り水中の何かを掬うようにして採食していた。実際何かを食するところを見

たが食物を同定するまでには至らなかった。

この個体はその後、共和Bの干潟に移動し5月14日まで見られた。同所にはセイタカシギも入ったので訪れた観察者にとっては楽しい観察になったようだ。コムケ湖におけるソリハシセイタカシギの記録は2006年5月23日に1羽観察されて以来の2回目。

どのような経緯でこの2種がコムケ湖に飛来したのかは不明だが、5月3日は一日強い西風が吹いていた。クロヅルがタンチョウと共に出現したのも興味深い。

## ノドグロツグミを観察

日本野鳥の会札幌支部 住友 順子

2017年1月28日、千歳市青葉4丁目ハルニレ公園にてノドグロツグミを確認したので報告します。

この日は私が講師を務めているNHKカルチャー教室「ゆったり自然散歩」で朝10時にJR千歳駅に受講者の皆さんと集合し、千歳川の水鳥観察会に出かけました。天気はうす曇りで、時々桜の花びらが舞い散るような小雪が降ります。雪道に足をとられながら川筋を行くと、ホオジロガモ、カワアイサ、ダイサギなどが観察できます。この先の小さな公園で以前ハルニレの大木にオジロワシが止まっていたのを思い出して行ってみると、オジロワシの姿は無く、数本のナナカマドの木の実に群がるツグミを見つけました。ツグミの群れには常々他のツグミの仲間など交じることがあるので注意深く1羽ずつ観察していると、見慣れない鳥が双眼鏡の中に入りました。喉が黒く、お腹は綿雪のように真っ白な鳥が枝に止まっています。横を向くと背中の色は濃いオリーブ色に見えます。他のツグミはせわしくナナカマドの実をついばんでいるのですが、その鳥はほんの少し距離を置いて止まっていました。急ぎカメラを出し2回シャッターを切ったところでツグミと共に対岸の方へ飛び去りました。

小雪も降ってきたので千歳の道の駅に立ち寄り、撮った写真を図鑑で確認するとノドグロツグミに当たりました。その後ウェブサイト調べてみてもノドグロツグミの亜種



写真1. ノドグロツグミ 2017. 1. 28 千歳市

ノドアカツグミの情報は多くあるのですがノドグロツグミは殆どなく困りました。珍鳥の宝庫十勝の知人などに聞いてみましたが確認例は無いとの事でした。ところが支部会員のM氏が38年前(1979年)に豊平区のKさん宅のエサ台に来て、新聞に載りバードウォッチャーを驚かせた鳥である事を教えてくれました。

貴重な情報と思い新聞社の方に連絡をし取材を受けたのですが、繁殖地は西シベリア、中央アジアで越冬地がイラン南部、アフガニスタン、バングラデシュと伝えると「なぜ?この鳥は日本にやって来たと思われませんか!」との質問に私がしどろもどろに考えた答えは「一部分がツグミの繁殖地と重なっている所があるのでツグミと一緒に来たのではないかと思いますか?」真相は本人へ聞いてください。そして私こそノドグロツグミに「YOUは何しに日本へ?」と聞けるものなら聞いてみたかったです。

## 亜種コシジロオオソリハシシギか?

札幌市中央区 大町 正弘

2017年4月9日と11日に亜種コシジロオオソリハシシギと思われる個体を観察することができました。場所は石狩川左岸側にある馬放牧場にできた水溜まり(当別町ビトエ)で堤防の上から観察しました。

一度目の4月9日の観察では初めてオオソリハシシギ3羽とオグロシギ2羽の夏羽を観察でき感動しましたが、この日は鳥も遠く、陽炎の影響もあり鮮明な写真は撮れませんでした。11日の早朝にもう一度現地を訪れると幸運なことにオオソリハシシギが近くまで飛んできました。この時の着地シーンを画像で確認したところ、背中の方に白色部が食い込んでおり、腰の白色部上の褐色斑も少ないので亜種コシジロオオソリハシシギの可能性はあるのではないかと思います。

野鳥の識別に詳しい方に画像を見て頂いたところ、「亜



種コジロオオソリハシシギと思われる個体」「ただ、亜種オオソリハシシギ、亜種コジロオオソリハシシギ、もっと腰などが白い別亜種までの特徴が連続的で、腰の白い個体が本当に亜種コジロオオソリハシシギかどうかに関する論述はそれなりに難しい」とのことでした。

今回、思いがけず珍しい鳥を観察でき、また識別の奥深さを学ばせて頂きました。今後の観察、撮影に活かしていきたいと思います。

写真1. 亜種コジロオオソリハシシギ？  
2017. 4. 11 石狩管内当別町

## 札幌市西区でミゾゴイを観察

札幌市西区 石田 卓也

2017年5月3日、札幌市西区の宮丘公園にて北海道では希なミゾゴイを観察しました。

西区の宮丘公園には西野8条10丁目の浄水場へと通じる西野市民の森散策路があります。この日も探鳥のため散策路へ足を踏み入れたところ、地表からカラス大の鳥が飛び立ち散策路の少し奥へと降りるのを見ました。その飛び方がカラスに比べて妙にゆったりとした感じに見えたため気になって鳥が降りた場所まで行ってみることに。するとその鳥は再び飛び立って少し奥の木にとまります。とまった木の方を双眼鏡でじっくり探すと・・・いました。腹部をこちらに向けて体を延ばし木に擬態する小型のサギと思いき鳥が。とっさに以前四国で聞いた話を思い出しこれはおそらくミゾゴイ（又はズグロミゾゴイ）だろうと判断しました。当初ミゾゴイは警戒していましたが、こちらが身を低くして木の陰や下草に隠れていると徐々に擬態を解いてくれ、最終的には水色をした目の周りや橙褐色の背面を含めたほぼ全身を約20mほどの距離からじっくりと観察することができました。

ミゾゴイは本州以南に夏鳥として渡来するとされます。

4月30日は非常に強い南風が吹いたため、もしかしたらそれに流されてきて本来の繁殖地である低山の森林に良く似た環境のこの散策路で休息をとっていたのかもしれませんが。このミゾゴイが無事に本来の繁殖地へと帰りつけることを願うばかりです。

今回観察した中で面白かったのは、他の人が散策路を通った際、ミゾゴイがそれに合わせて徐々に体の向きを変えていったこと。擬態をするためには腹部の模様を警戒対象に向け続ける必要があるからなのでしょう、意外と芸の細かいことだと感心する反面、結局動いたら擬態の意味ないのでは？とも思うのでした。



写真1. ミゾゴイ 2017. 5. 3 札幌市西区



### 表紙の鳥

### ヤマセキ

(カラー写真は<http://www.aigokai.org>に掲載)

今年の冬、川が結氷していた関係で魚をなかなか捕えることができず、何度も採餌を試みていたときの1枚です。

ヤマセキの雄の特徴である翼下面の白、首元の褐色、普段はよく見えない足の色や形、そして採餌の際に行うホバリングで、ヤマセキがどんな格好をしているのかが伝わり、彼らの凄さを感じました。

今堀 魁人 (札幌市南区)

2016年度 北海道野鳥愛護会探鳥会記録(2016.4~2017.3)

科・種名	探鳥地	モエ	宮	野	藤	野	千	鶉	野	植	厚	野	福	野	石	野	い	宮	野	野	ウ	野	小	野	円	ウ	記	
		レ	島	幌	の	幌	歳	川	川	苗	別	幌	移	幌	狩	幌	し	島	幌	幌	ト	幌	樽	幌	山	ト		録
		沼	沼	森	沢	森	川	河	ウ	川	森	林	林	林	河	森	かり	沼	森	森	ナイ	森	港	森	公	ナイ		
日	4	4	4	5	5	5	5	5	6	6	6	6	7	8	9	9	10	10	11	11	11	12	1	2	3	3	数	
カモ科																												
ヒシクイ																		●								●	2	
マガン		●																●			●					●	4	
カリガネ																		●									1	
ハクガン		●																●									1	
シジュウカラガン		●																●			●						3	
コブハクチョウ																					●					●	2	
コハクチョウ		●																									1	
オオハクチョウ		●																								●	2	
オシドリ				●	●						●		●	●	●												6	
ヨシガモ	●																	●								●	3	
ヒドリガモ	●	●				●	●											●			●					●	7	
マガモ	●	●	●	●	●	●			●		●	●		●	●			●	●	●	●		●			●	16	
カルガモ		●			●		●				●			●				●								●	7	
ハシビロガモ	●							●										●								●	3	
オナガガモ	●	●																●	●		●					●	6	
シマアジ																		●								●	1	
コガモ	●	●					●											●	●	●						●	7	
ホシハジロ	●	●																●		●						●	2	
キンクロハジロ	●	●	●		●	●												●					●			●	7	
スズガモ																					●					●	2	
コケワタガモ																						●		●		●	1	
シノリガモ																							●			●	1	
ビロードキンクロ																							●			●	1	
クロガモ																							●			●	1	
ホオジロガモ																					●		●			●	3	
ミコアイサ	●	●																			●		●			●	4	
カワアイサ	●	●													●						●					●	5	
ウミアイサ																							●			●	1	
カイツブリ科																												
カイツブリ	●		●		●					●					●			●	●		●						8	
アカエリカイツブリ																				●				●		●	2	
カンムリカイツブリ																							●			●	2	
ハト科																												
キジバト	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●									16	
アオバト									●			●		●													●	3
アビ科																												
オオハム																							●				1	
シロエリオオハム																							●				1	
ウ科																												
ヒメウ																							●				1	
カワウ	●	●																			●					●	4	
ウミウ															●								●				2	
サギ科																												
アオサギ	●	●				●	●		●	●	●	●		●			●	●								●	12	
ダイサギ	●	●																●	●	●		●				●	7	
クイナ科																												
オオバン	●																	●									2	
カッコウ科																												
ツツドリ					●	●		●	●	●	●		●														6	
カッコウ								●	●	●	●		●														5	
アマツバメ科																												
ハリオアマツバメ									●																		1	
アマツバメ									●																		1	
チドリ科																												
コチドリ							●																				1	
シギ科																												
オグロシギ																		●									1	
コアオアシシギ																		●									1	
アオアシシギ																		●									1	
タカアシシギ																		●									1	



科・種名	探鳥地	記録回数																									
	月日	4/17	4/24	4/29	5/5	5/8	5/15	5/22	5/29	6/5	6/12	6/19	6/26	7/10	8/21	9/4	9/11	10/2	10/9	10/16	11/13	12/4	1/22	2/5	3/5	3/19	
イソシギ											●				●												2
トウネン							●										●										2
キリアイ																	●										1
エリマキシギ																	●										1
アカエリヒレアシシギ																	●										1
カモメ科																											
ミツユビカモメ																								●			1
ユリカモメ											●																1
ウミネコ							●									●											3
カモメ	●	●																						●			3
ワシカモメ																								●			1
シロカモメ																						●				●	2
オオセグロカモメ	●						●			●		●			●							●		●		●	8
アジサシ																	●									●	1
ハジロクロハラアジサシ											●																1
ウミスズメ科																											
ハシブトウミガラス																								●			1
ウミガラス																								●			1
ウミスズメ																								●			1
ミサゴ科																											
ミサゴ																		●									1
タカ科																											
ハチクマ											●																1
トビ	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	21
オジロワシ		●																				●	●	●	●	●	6
オオワシ																						●	●	●	●	●	2
チュウヒ								●										●				●					4
ハイタカ																											2
オオタカ																											1
ノスリ				●																							2
フクロウ科																											
フクロウ																								●	●		2
カワセミ科																											
カワセミ								●																			2
キツツキ科																											
アリスイ		●									●																3
コゲラ			●	●	●	●		●			●				●				●	●		●		●	●	●	13
オオアカゲラ			●	●	●	●		●			●				●				●	●		●		●	●	●	4
アカゲラ	●	●		●	●	●		●	●	●					●				●	●	●	●		●	●	●	17
クマガゲラ			●								●											●		●		●	3
ヤマゲラ			●		●	●					●				●						●	●		●		●	8
モズ科																											
モズ		●									●																2
ハヤブサ科																											
ハヤブサ																								●			1
カラス科																											
カケス			●		●																						2
ハシボソガラス	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	16
ハシブトガラス	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	23
キクイタダキ科																											
キクイタダキ	●																										2
シジュウカラ科																											
ハシブトガラ	●		●	●	●	●		●	●	●					●				●	●	●	●		●	●	●	18
ヤマガラ			●	●	●	●		●			●				●				●	●	●	●		●	●	●	13
ヒガラ			●	●	●	●		●			●				●				●	●	●	●		●	●	●	11
シジュウカラ	●		●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	20
ヒバリ科																											
ヒバリ	●	●					●				●				●											●	7
ツバメ科																											
ショウドウツバメ																											2
イワツバメ						●																					1
ヒヨドリ科																											
ヒヨドリ	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	19

科・種名	探鳥地	モエレ沼	宮島沼	野幌森林公園	藤の沢	野幌森林公園	千歳川	鶴川河口	野幌森林公園	植苗ウトナイ	厚別川	野幌森林公園	福移	野幌森林公園	石狩川河口	野幌森林公園	いしかり調整池	宮島沼	野幌森林公園	野幌森林公園	ウトナイ湖	野幌森林公園	小樽港	野幌森林公園	円山公園	ウトナイ湖	記録回数
	月日	4/17	4/24	4/29	5/5	5/8	5/15	5/22	5/29	6/5	6/12	6/19	6/26	7/10	8/21	9/4	9/11	10/2	10/9	10/16	11/13	12/4	1/22	2/5	3/5	3/19	
ウグイス科																											
ウグイス			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●													10
ヤブサメ			●	●	●	●			●	●		●		●													8
エナガ科																											
エナガ			●				●					●				●				●	●	●		●		●	9
ムシクイ科																											
オオムシクイ												●															1
エゾムシクイ				●																							1
センダイムシクイ			●	●	●	●			●	●		●		●		●											9
メジロ科																											
メジロ				●	●	●			●	●										●							6
センニュウ科																											
マキノセンニュウ								●					●														2
シマセンニュウ										●			●														1
エゾセンニュウ										●			●														2
ヨシキリ科																											
オオヨシキリ								●		●	●		●														4
コヨシキリ								●		●	●		●														4
レンジャク科																											
キレンジャク																								●			1
ヒレンジャク																								●			1
ゴジュウカラ科																											
ゴジュウカラ			●	●	●	●		●			●		●		●				●	●	●	●	●	●	●	●	14
キバシリ科																											
キバシリ				●	●	●		●											●		●	●		●			8
ミソサザイ科																											
ミソサザイ																					●						1
ムクドリ科																											
ムクドリ		●								●		●					●	●									5
コムクドリ										●		●															2
ヒタキ科																											
クロツグミ			●	●	●	●						●															5
シロハラ																									●		1
ツグミ		●	●																		●		●	●			5
ノゴマ													●										●	●			1
ルリビタキ			●																		●						2
ノビタキ		●	●					●		●	●		●														6
コサメビタキ							●									●											2
キビタキ				●	●	●		●	●	●		●		●		●											8
オオルリ				●	●	●		●		●		●		●		●											6
スズメ科																											
ニューナイスズメ			●	●	●	●				●	●																6
スズメ		●	●	●			●			●	●												●		●		9
セキレイ科																											
キセキレイ				●																							1
ハクセキレイ		●	●	●		●	●			●		●		●		●	●				●		●				12
セグロセキレイ						●																					1
アトリ科																											
アトリ				●																	●	●	●		●		5
カワラヒワ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●			●	●		●	●		17
マヒワ				●																	●	●		●	●		5
ベニヒワ																					●			●			2
ハギマシコ																							●				1
ベニマシコ		●								●	●		●														4
ウソ																					●		●		●	●	4
シメ			●		●				●													●		●	●	●	6
イカル						●		●						●								●		●	●		4
ホオジロ科																											
ホオジロ				●				●														●					3
ホオアカ								●		●		●															3
アオジ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				●	●								15
クロジ							●																				1
オオジュリン		●	●					●		●			●														5

科・種名	探鳥地	モエレ沼	宮島沼	野幌森林公園	藤の沢	野幌森林公園	千歳川	鶴川河口	野幌森林公園	植苗ウトナイ	厚別川	野幌森林公園	福移	野幌森林公園	石狩川河口	野幌森林公園	いしかり調整池	宮島沼	野幌森林公園	野幌森林公園	ウトナイ湖	野幌森林公園	小樽港	野幌森林公園	円山公園	ウトナイ湖	記録回数
	月	4	4	4	5	5	5	5	5	6	6	6	6	7	8	9	9	10	10	11	11	12	1	2	3	3	
日	17	24	29	5	8	15	22	29	5	12	19	26	10	21	4	11	2	9	6	13	4	22	5	5	19		
ハト科 (外来種)																											
カラバト (ドバト)										●										●			●		●	4	
観察種類数	36	36	25	34	29	38	28	28	29	27	31	34	22	17	18	21	27	20	21	32	18	33	22	18	29	673	
参加者数	49	41	17	25	44	49	38	57	40	41	34	24	19	23	26	52	54	33	15	24	38	46	36	62	29	916	

- ※1 宿泊探鳥会を除き25回実施 (8月28日の鶴川河口は、台風により人工干潟に通じる橋が決壊したため中止しました)
- ※2 総観察種 43科 146種、1回平均26.9種 (前年度: 42科154種、1回平均25.9種)
- ※3 延参加者数 916人、1回平均36.6人 (前年度: 898人、1回平均34.5人)
- ※4 野鳥だより184号に掲載した千歳川探鳥会の【記録された鳥】に、メジロの記載漏れがありましたので訂正します。

## 平成29年度 総 会 報 告

日 時：平成29年4月12日(水) 18:30~20:00

場 所：かでの2・7 110会議室

樋口孝城会長の挨拶のあと、議長に栗林宏三氏を選出した。議案審議のうえ、原案どおり可決、承認された。

・変更機能を実装

(3) 探鳥会年間予定表を11か所に配置

### 〔探 鳥〕

- (1) 探鳥会25回 (総参加者数916人 1回平均36.6人)
- (2) 宿泊探鳥会 平成28年7月2日(土)~3日(日) 旭岳 (1泊2日) 参加者42名

### 〈議 事〉

#### 1. 平成28年度事業報告

#### 〔総 務〕

- (1) 野鳥写真展の開催  
期 間：平成28年5月1日(日)~5月10日(火)  
場 所：札幌市男女共同参画センター (北区北8西3) エルプラザ2階 交流広場  
出 展：16名 31点
- (2) 「北海道野鳥だより」の発送 (184号~187号)
- (3) 野幌森林公園自然ふれあい交流館写真展  
期 間：平成28年6月1日(水)~6月30日(木)  
出 展：16名 31点
- (4) 新年講演会・野鳥写真映写会の開催  
日 時：平成29年1月14日(土)13:30~16:00  
場 所：エルプラザ4階 大研修室  
講 師：千嶋 淳 氏

(NPO法人日本野鳥の会十勝支部)

演 題：「魅惑の探鳥地・十勝~水鳥と海鳥を中心に」

参加者：95名 (写真提供者5名)

- (5) 北海道野鳥愛護会名入りカレンダーの作成・販売  
80部 販売価格1,200円
- (6) 定例幹事会の開催 (各月1回、計12回)
- (7) 傷害保険の更新 (探鳥会26回 保険料17,960円)

#### 〔広 報〕

- (1) 「北海道野鳥だより」184号~187号の発行  
(野鳥だより編集委員会)
- (2) 北海道野鳥愛護会ホームページの維持・運営  
(ホームページ運営委員会)

第1弾のリニューアルを実施、Web入会・問合せ

#### 2. 平成28年度決算報告

平成28年度決算書 (別掲のとおり)

#### 3. 会計監査報告

川東保憲監事から適正に処理されている旨の報告があった。

#### 4. 平成29年度事業計画

#### 〔総 務〕

- (1) 野鳥写真展の開催  
期 間：平成29年5月10日(水)~5月23日(火)  
場 所：札幌市男女共同参画センター (北区北8西3) エルプラザ2階 交流広場
- (2) 野幌森林公園自然ふれあい交流館写真展  
期 間：平成29年6月1日(木)~6月30日(金)
- (3) 「北海道野鳥だより」の発送 (188号~191号)
- (4) 新年講演会・野鳥写真映写会の開催  
日 時：平成30年1月13日(土)予定
- (5) 北海道野鳥愛護会名入りカレンダーの作成・販売
- (6) 定例幹事会の開催 (各月1回、計12回)
- (7) 傷害保険の更新
- (8) 関連団体との協力 (野幌森林公園を守る会など)

#### 〔広 報〕

- (1) 「北海道野鳥だより」188号~191号の発行  
(野鳥だより編集委員会)
- (2) 北海道野鳥愛護会ホームページの第2弾リニューアル

アル・維持・運営  
(ホームページ運営委員会)

- (3) デジタル・バードウォッチングの支援
- (4) 探鳥会年間予定表を関係施設へ配置

〔探鳥〕

- (1) 探鳥会27回 (宿泊探鳥会を含む)
- (2) 宿泊探鳥会 平成29年10月21日(土)~22日(日)  
十勝地方(1泊2日) 定員45名

5 平成29年度予算

平成29年度予算書(別掲のとおり)

6 平成29年度役員人事

総務幹事代表は畑 正輔氏が退任し、後任として辻 雅司氏を選任した。中正憲佑氏、清水朋子氏が幹事を退任した。新任幹事として、中田達哉氏、田中冬彦氏を選任した。

顧問 藤巻 裕蔵、小堀 煌治、戸津 高保  
会長 樋口 孝城  
副会長 富川 徹 栗林 宏三、横山加奈子  
監事 吉中宏太郎、川東 保憲  
代表幹事 畑 正輔  
幹事

(総務) ◎辻 雅司、品川 陸生、竹内 強、  
松原 寛直、中村 隆、畑 正輔  
(会計) ◎横山加奈子、原 美保、浜野チエ子  
(探鳥) ◎早坂 泰夫、梅木 賢俊、門村 徳男、  
北山 政人、後藤 義民、佐々木 裕、  
道場 優、田中 陽、鷺田 善幸、  
佐藤ひろみ、富川 徹、中田 達哉  
(広報) ◎鳥田 芳郎、川路 則友、高橋 良直、  
本間 康裕、樋口 孝城、道川富美子、  
島崎 康広、田中 冬彦  
(◎印は、各担当の代表者)

## 平成28年度 決 算 書

(収入の部)

項目	27年度決算	28年度予算	28年度決算	予算比(▲減)	備 考
個人会費	508,000	512,000	586,000	74,000	
家族会費	150,000	156,000	180,000	24,000	前納、後納を含む
団体会費	10,000	5,000	5,000	0	
活動収入	238,300	210,000	240,600	30,600	講演会・小樽探鳥会参加費、カレンダー売上他
雑収入	2,290	481	4,062	3,581	利息他
寄付金	21,000	10,000	11,000	1,000	個人寄付
小 計	929,590	893,481	1,026,662	133,181	
繰越金	179,536	202,519	202,519	0	
合 計	1,109,126	1,096,000	1,229,181	133,181	

(支出の部)

項目	27年度決算	28年度予算	28年度決算	予算比(▲減)	備 考
印刷費	434,546	435,000	456,956	21,956	野鳥だより印刷費他
通信費	128,616	130,000	130,214	214	会報発送費、切手代、ホームページ維持費
会議費	45,000	50,000	48,700	▲1,300	幹事会、総会会場費
活動費	200,084	220,000	216,299	▲3,701	会場費、バス代、カレンダー支払
交通費	20,500	20,000	18,500	▲1,500	発送時交通費
消耗品費	19,501	30,000	28,380	▲1,620	ink代、封筒代、用紙代他
事務所費	40,000	40,000	40,000	0	事務所費用
傷害保険費	16,360	18,000	17,960	▲40	保険代
雑 費	2,000	10,000	1,000	▲9,000	設備利用料他
予備費	0	143,000	0	▲143,000	
基金積立	0	0	0	0	
次年度繰越	202,519	0	271,172	271,172	
合 計	1,109,126	1,096,000	1,229,181	133,181	

## 平成29年度 予 算 書

(収入の部)

項目	29年度予算	28年度決算	増 減	備 考
個人会費	512,000	586,000	▲ 74,000	
家族会費	156,000	180,000	▲ 24,000	前納、後納を含む
団体会費	5,000	5,000	0	
活動収入	210,000	240,600	▲ 30,600	講演会、カレンダー売上他、小樽探鳥会
雑収入	828	4,062	▲ 3,234	利息他
寄付金	10,000	11,000	▲ 1,000	個人寄付
小 計	893,828	1,026,662	▲ 132,834	
繰越金	271,172	202,519	68,653	
合 計	1,165,000	1,229,181	▲ 64,181	

(支出の部)

項目	29年度予算	28年度決算	増 減	備 考
印刷費	435,000	456,956	▲ 21,956	野鳥だより印刷費他
通信費	130,000	130,214	▲ 214	会報発送費、切手代、ホームページ維持費
会議費	50,000	48,700	1,300	幹事会、総会会場費
活動費	233,000	216,299	16,701	会場費、バス代、カレンダー支払他
交通費	20,000	18,500	1,500	発送時交通費
消耗品費	40,000	28,380	11,620	事務用品他
事務所費	40,000	40,000	0	
傷害保険費	18,000	17,960	40	保険代
雑 費	10,000	1,000	9,000	設備利用料他
予備費	189,000	0	189,000	
基金積立	0	0	0	
次年度繰越金	0	271,172		
合 計	1,165,000	1,229,181	▲ 64,181	

## 積立基金特別会計

(28年度収入決算)

(29年度収入予算)

項目	金額
積立金	600,000
一般会計より繰入	0
合計	600,000

項目	金額
積立金	600,000
一般会計より繰入	0
合計	600,000

## 会 員 数

	25. 4. 1	26. 4. 1	27. 4. 1	28. 4. 1	29. 4. 1
個人	270名	257名	258名	262名	262名
家族	93名(41家族)	99名(43家族)	111名(47家族)	125名(54家族)	124名(55家族)
団体	3会員	2会員	2会員	1会員	1会員
合計	366名	358名	371名	388名	387名



### 円山公園

2017. 3. 5  
札幌市西区  
吉見 紫乃

外は気温0℃、頬を刺す冷たい風が吹くなか春の訪れをもとめて約70名の方が探鳥会に参加しました。

まず入り口の所で出迎えてくれたのはマヒワ達。鮮やかな黄緑色が美しく木のあちこちを飛びかい下に降りてはエサをついばみ探鳥会の途中でもそして最後にも私達の眼を楽しませてくれました。新芽が赤く色づいた梅林ではもくもくと新芽を食べるウソにも出会えたしハシブトガラ、コゲラ、ヤマガラ等々、円山でよく見られる鳥達をじっくり観察できました。

愛護会の探鳥会に参加していつも感心するのは植物に詳しい方が多いということ。鳥のことをいろいろ教えてもらうのはもちろんですが、植物のことを教えてもらうのも私にとっては大きな楽しみです。

今回は宿木。冬になって葉が落ちると現れるあのクス玉のようなぼんぼりのような丸い物体。みんなで宿木を見上げているとどこからか「まあ上手に丸く作るのネエ」と感心したような声が聞こえてきました。私も最初はカラスかなにかが作った巣だと思っていました。あれはヤドリギという種名の寄生植物で、レンジャクがその実を食べ種が腸を通りぬけねばねばした糸をひいて樹の上に落ち、そこから発芽してあのような形に成長するの事を何人かの方から教えていただきました。ふ～んそうだったのかと興味が湧き家に帰って調べてみると。歴史的には樹木を枯らす疫病のようなものと考えられていたが、近年ではヤドリギ類に営巣する鳥が多く見られ生物多様性に良い効果をもたらしていることがわかったとのこと。オーストラリアでは240種以上の鳥がヤドリギを巣としているらしいです。それを読み、あの丸いのを下におろして真近で見たいと思ったり、日本ではヤドリギに営巣する鳥はいないのだろうか？あのくらいの大きさになるには何年くらいかかるんだろう？と興味、疑問がフツフツ・・・。

また少し世界が広がったような気がします。バードウォッチングは奥が深い！今日も充実した一日でした。

【記録された鳥】トビ、コゲラ、アカゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ハシブトガラ、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ゴジュウカラ、シロハラ、スズ

メ、アトリ、マヒワ、ウソ、シメ、カワラバト (ドバト)  
以上18種

【参加者】今村三枝子、井山幸大、白田 正、小倉史恵、北川倫行・ひとみ、北山政人、熊崎 隆・三枝子、栗林宏三、笹森繁明、佐藤啓子、佐藤智子・尚也・佳乃子、品川睦生、白澤昌彦、新藤千里、鈴木勝之、鈴木幸弥、高田征男、高橋きよ子、高橋貞夫、竹中悦子、立田節子、田中志司子、田辺 至、辻 雅司・方子、対馬真乃、徳田恵美、戸津高保・以知子、鳥屋祐樹、中川 哲・信子、中村隆、橋爪陽子、畑 正輔、早坂泰夫、原 美保、樋口孝城、菱谷紀久子、平岡信夫、廣木朋子、福島 文、辺見敦子、本間康裕、松尾宗一郎、松原寛直・敏子、村上茂夫、本杉政司・朋子、山木翠子、山田甚一、山本育子、横山加奈子、吉田慶子、吉田陽子、吉見孝夫・紫乃

以上62名

【担当幹事】原 美保、横山加奈子

### ウトナイ湖

2017. 3. 19

【記録された鳥】ヒシクイ、マガン、コブハクチョウ、オオハクチョウ、ヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、コガモ、ホオジロガモ、ミコアイサ、カワアイサ、カンムリカイツブリ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、シロカモメ、オオセグロカモメ、トビ、オジロワシ、オオワシ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ハシブトガラ、シジュウカラ、ヒバリ、ヒヨドリ、エナガ

以上29種

【参加者】今村三枝子、井山幸大、上坂 久・千幸、白田正、金子喜映・洋子、北山政人、齋藤浩一郎・由美子・佑朱、佐々木道弘、佐藤啓子、品川睦生、島崎康広、島田芳郎・陽子、新藤千里、鈴木勝之、田中さちよ、辻 雅司、畑 正輔、早坂慶子、早坂泰夫、美頭佳範、樋口孝城、山木翠子、吉田慶子、鷺田善幸

以上29名

【担当幹事】辻 雅司、鷺田善幸

### モエレ沼

2017. 4. 16

札幌市北区 門馬 公生

私が野鳥に少し興味を持ったのは、今から20年ほど前、苫小牧市に住んでいたときでした。

住まいは、JRの線路から20mほどの所で線路と住宅の

間に小さな木が点在している、野鳥にとって好環境の場所とは思えない所でしたが、春になるとモズやムクドリ、コムクドリがよく集まり、夏には茂みの中でエゾセンニュウが囀り、夜の上空ではオオジシギがうるさいぐらい鳴きながら飛んでいるような場所でした。また、有珠川の上流にクレソンを摘みに行ったとき、3mほど先の木にオオルリとキビタキを見つけた時の驚きと、あまりの美しさに感動を覚えたことを今でも思い出します。

苦小牧を離れてからの20年間は、野鳥観察の機会も減ってしまいましたが、昨年苦小牧に立ち寄ったとき、街路樹に2羽のカササギが止まっているのを見つけ、あの時の感動が蘇ってきました。初めて見たカラスに似たこの鳥の名前は分かりませんでした。白黒に紫色が混じった色合いは、まるで羽生結弦が陰陽師を演じたときの衣装のようだったと思います。最近またバードウォッチングを始めるようになったきっかけが、これでした。

そんな折、初めてモエレ沼の探鳥会に参加させていただき、25種類の鳥を自分の目で確認でき、終了間際にはアンテナの上でドラミングするアカゲラまで見られ、とてもラッキーな一日でした。また、担当の皆様の“野鳥愛”を感じながら、とても楽しいひと時を過ごすことができ、感謝しております。

今日いただいた『今年度の探鳥会予定表』を見ますと、とても魅力的な探鳥地ばかりなので、日程が合えばこれからもぜひ参加したいと思っています。それに先立ち、北海道野鳥愛護会に入会したいと考えておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

【記録された鳥】ヨシガモ、ヒドリガモ、アメリカヒドリ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、コガモ、キンクロハジロ、ミコアイサ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、バン、オオバン、カモメ、トビ、ノスリ、アカゲラ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒガラ、シジュウカラ、ヒバリ、ヒヨドリ、ムクドリ、ノビタキ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、オオジュリン、カワラバト (ドバト) 以上34種

【参加者】阿部真美、荒川 顕、荒川洋子、今堀魁人、今村三枝子、岩井幸子、臼田 正、内村真由美、江田真毅・岬毅、大石昭子、大表順子、大場健一、大橋 晃、大町 豊・正弘、小倉史恵、小野寺まゆみ、鹿川美咲、川東保憲・知子、川村政博、北山政人、栗林宏三、小泉茂樹、小泉良子、小島俊幸、佐藤香織、品川陸生、島崎康広、島田芳郎・陽子、鈴木勝之、高田征男、高橋貞夫、田隈泰信、田中志司子、田中冬彦、田中 陽・雅子、田辺 至、辻 雅司・方子、網島詔雄、網島征子、戸津高保・以知子、成田京子、畑 正輔、浜野チエ子、早坂泰夫、樋口孝城・陽子、藤原久子、升井純子、丸島道子、村上茂夫、本杉政司・朋子、門馬公生、山木翠子、山根久佳、山本康裕、横山加奈子、吉井留理子、吉田慶子、吉見孝夫・紫乃

以上68名

【担当幹事】北山 政人、樋口 孝城

## 宮 島 沼

2017. 4. 23

【記録された鳥】ヒシクイ、マガン、ハクガン、ヒドリガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、シマアジ、コガモ、キンクロハジロ、キジバト、アオサギ、オオバン、トビ、オジロワシ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ハシブトガラ、シジュウカラ、ヒバリ、ヒヨドリ、ムクドリ、ノビタキ、ニュウナイスズメ、カワラヒワ、アオジ、オオジュリン 以上27種

【参加者】阿部勝利、今堀魁人、今村三枝子、大表順子、金子喜映・洋子、川東保憲・知子、栗林宏三、佐藤啓子、佐藤妙子、佐藤ひろみ、品川陸生、島田芳郎・陽子、高橋良直、辻 雅司・方子、戸津高保、長尾保秀・由美子、畑正輔、早坂泰夫、美頭佳範、樋口孝城、廣木朋子、本杉政司・朋子、山本康裕 以上29名

【担当幹事】佐藤ひろみ、早坂泰夫

## 野 幌 森 林 公 園

2017. 4. 29

札幌市厚別区 早川 嘉彦

連休の前後2回、野幌森林公園での探鳥会に参加しました。まず最初に「この森の主さん」から、最近見た鳥の種類、場所などの説明がありました。あとは10人前後の幹事さん達の説明を受けながら、見て回りました。鳥の鳴き声など、その場ですぐ名前をシャキシャキと教えてもらえ、とても快適でした。又、出た鳥もたちまち教えてもらえるので、良かったです。幹事さん達のレベルがとても高く、ただただ感心した次第です。又、会の運営も素晴らしく、とても心地よいものでした。

少しだけ、お願いできればなーという点を書いてみます。  
①鳥名検索手順の可視化(初心者からのグレードアップ) この様な素晴らしい幹事さんたちの頭の中で行われているであろう「鳥名探索手順」をもう少し教えてもらえたらなーと多少思いました。例えば梢にワラワラと小鳥の群れがいるとします。数にもよりますが、渡り途中の冬鳥、夏鳥の可能性もあります。又、留鳥のカラなどの群れかもしれません。今、この時期にいる鳥の中から(最初に幹事さんから説明が有りました)、形、色、何をしているのか(例えば花芽などを食べている)、鳴き声等々を総合して数種類から\*\*\*という1種に絞り込むという作業をされているかと思えます。この手順をもう少し詳しくご説明いただけたらもっと興味深くなるかと思えます。他の例では鳥の止まる高さが種類によって違うようです。結果として1種ではなく、何種類かの候補から、コレというあたりの絞り込みをもう少し教えてもらえたらなーと思いました。

②幹事さん達をリーダーとする少人数の数多くグループへの再編成へ

先に書いたような事を説明するには「マイクを使う」か、「少人数へのグループ分け」しかないかと思えます。マイ

クは問題が多すぎますから、どうすればいいのか・・・。

勝手なことを書きましたが、ご参考になればと思います。皆様のおかげで、楽しく鳥を見ることができて、楽しかったです。有難うございました。

【記録された鳥】オシドリ、マガモ、コガモ、キンクロハジロ、カイツブリ、キジバト、アオサギ、ハイタカ、コゲラ、オオアカゲラ、アカゲラ、ヤマゲラ、ハシブトガラス、キクイタダキ、ハシブトガラ、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、ヤブサメ、エナガ、センダイムシクイ、メジロ、ヒレンジャク、ゴジュウカラ、キバシリ、クロツグミ、コマドリ、ルリビタキ、ニューナイスズメ、カワラヒワ、マヒワ、アオジ 以上34種

【参加者】阿部勝利、石井正訓、岩井幸子、川東保憲・知子、川村宣子、小泉茂樹、後藤義民、小西英美枝、齊藤由美子・佑朱、佐藤香織、高井さつき、高橋利道、高橋治貴、田隈泰信、辻 雅司、中村 隆、畑 正輔、早川嘉彦、早坂泰夫、美頭佳範、本間康裕、前田八郎、松原寛直・敏子、三井 茂、本杉政司・朋子、山本育子、山本康裕、横山加奈子、吉田慶子 以上33名

【担当幹事】畑 正輔、横山加奈子

## 藤 の 沢

2017. 5. 5

【記録された鳥】マガモ、キジバト、トビ、カワセミ、コゲラ、オオアカゲラ、アカゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ハシブトガラ、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、ヤブサメ、センダイムシクイ、メジロ、ゴジュウカラ、キバシリ、ツグミ、キビタキ、ニューナイスズメ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、カワラヒワ、マヒワ、シメ、ホオジロ、アオジ、クロジ 以上32種

【参加者】秋本秀人、秋山洋子、阿部勝利、荒井修二、上坂 久・千幸、小野寺まゆみ、柏木敦士、数田真弓、栗林宏三、小堀煌治、小谷内久江、品川陸生、島崎康広、謝 倩氷、白澤昌彦、高橋貞夫、高橋宣子、竹内 正、竹田芳範、田中さちよ、椿 典子、椿 美咲、中村萬千子、畑 正輔、早坂泰夫、樋口孝城・陽子、福島 文、本間康裕、松原寛直・敏子、本杉政司・朋子、門馬公生、山木翠子、吉見紫乃、ほか1名(匿名希望) 以上38名

【担当幹事】小堀煌治、品川陸生

## 野 幌 森 林 公 園

2017. 5. 7

【記録された鳥】キジバト、アオサギ、オオジシギ、トビ、コゲラ、オオアカゲラ、アカゲラ、クマガラ、ヤマゲラ、ハシブトガラス、ハシブトガラ、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、ヤブサメ、エナガ、エゾムシクイ、センダイムシクイ、メジロ、ゴジュウカラ、キバシリ、クロツグミ、キビタキ、オオルリ、ニューナイスズメ、カワラヒワ、アオジ 以上29種

【参加者】青木あけみ、秋山洋子、阿部 徹、上村信雄、上村ひさ子、内山英晋、大表順子、小川由真、勝見真知子、川東保憲、栗林宏三、後藤義民、媚山陽子、漆崎 修、品川陸生、鈴木勝之、高橋きよ子、立田節子、玉田克巳・瑞穂・楓、辻 雅司、道場 優、徳中利安、徳中ゆかり、中村 隆、蓮井 肇、畑 正輔、早川嘉彦、早坂泰夫、樋口孝城、廣木朋子、藤岡千鶴江、辺見敦子、松原寛直・敏子、三井 茂、本杉政司・朋子、門馬公生、山本恵里・淳史、山本昌子、山本康裕、横山加奈子、吉田慶子 以上46名

【担当幹事】川東保憲、畑 正輔

### 宿泊探鳥会(秋の十勝)のお知らせ

今年の宿泊探鳥会は、秋の渡りの時期に十勝に集結するガンの仲間を観察します。数千羽以上が集結するヒシクイやマガンとともに、近年渡来数が増えてきたハクガンやシジュウカラガンが期待されます。昨秋はハクガンが200羽以上、シジュウカラガンは数百羽渡来しました。また、カラ類などの小鳥の仲間、キツツキの仲間、タンチョウやオジロワシなども見ることができます。

月 日 10月21日(土)～22日(日)

集合場所 札幌駅 北口「鐘の広場」

集合時刻 10月21日(土) 7:15

行 程 等

1日目 札幌駅北口→昼食(十勝ロイヤルホテル)をはさんで三日月沼周辺で探鳥→湧洞沼周辺・大津漁港→十勝川温泉(泊)

2日目 十勝川温泉→千代田新水路→清見ヶ丘公園→昼食(十勝まきばの家)後、札幌→札幌駅北口

(観察する鳥の出方により一部行程が変わる場合があります)

札幌帰着 22日(日)16:30頃の前予定

定 員 45名

参加費用 23,000円(バス代、宿泊代、有料道路料金など。食事は21日昼食から22日昼食まで)

宿 泊 十勝川温泉 ホテル大平原 (015-574-2111)

申込受付 7月1日(土) 9:00から電話受付(会員限定。定員になり次第締め切ります)

申込み先 佐々木 裕 宿泊探鳥会担当幹事  
電話 011-596-2660

※午前中は電話が混み合い、お待ちいただくことがあります。話し中でも、ツーツーというお話し中の信号音は発せられませんが受付いたしておりますので、おかけ直してください。

旅行代金 申込み終了後から7月14日(金)までに  
下記口座にお振込みください。

北洋銀行札幌駅南口支店

口座名 (株)エイチ・ビー・シー・ビジョン

口座番号 (普通預金) 3790202



【野幌森林公園】

2017年7月9日(日)、9月3日(日)  
野幌森林公園も7月と9月とではそれぞれ異なる趣があります。大沢園地で昼食をとり、大沢口に戻るのは13:00頃になります。

集 合：野幌森林公園大沢口 9:00  
交 通：夕鉄バス新札幌駅発(文教台南町行)  
「大沢公園入口」下車 徒歩5分  
JRバス 新札幌駅発(文京台循環線)  
「文京台南町」下車 徒歩5分

【石狩川河口】 2017年8月20日(日)

秋の渡りのシーズンの前半に石狩浜・河口で主にシギ・チドリを楽しみます。はまなすの丘公園ビジターセンターの前から浜に出て河口まで、河口からは石狩川に沿って戻ります。全部で4kmほどの行程になります。正午近くに駐車場に戻って鳥合わせをし、センター内などで自由に昼食をとることになります。

集 合：はまなすの丘公園ビジターセンター駐車場 9:30  
交 通：中央バス 札幌ターミナル発(石狩行)  
終点「石狩」下車 徒歩20分

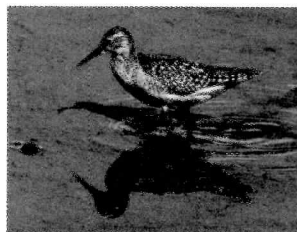
【鶴川河口】 2017年8月27日(日)

鶴川河口付近の自然干潟や人工干潟でのシギ・チドリの観察が主目的です。天候次第ですが、人工干潟付近で鳥合わせをし、自由解散となります。「四季の館」に戻って館内ロビーで昼食をとられる方が大半です。館内に食堂や売店もあります。

集 合：鶴川温泉「四季の館」駐車場 9:45  
交 通：道南バス 札幌駅前発または大谷地バスターミナル発(浦河行ペガサス号)「四季の館」下車

【いしかり調整池】 2017年9月10日(日)

秋の渡りのシーズンに、いしかり調整池にやってくるシギ・チドリを主に観察します。また、水鳥たちを狙って猛禽類もやってきます。調整池の周りでの観察で、ほとんど移動はありません。天候が良ければ管理棟の周りなどで昼食をとることになります。



昨年はいしかり調整池探鳥会で撮影された  
タカブシギ  
写真提供：高橋 良直さん

集 合：いしかり調整池駐車場 9:30  
交 通：公共の交通機関はありません。

☆いずれの探鳥会も悪天候でない限り実施します。  
☆昼食、観察用具、筆記用具などを持参してください。  
☆問い合わせ 北海道自然保護協会 011-251-5465  
10:00~16:00(土日、祝日を除く)

鳥民だより

◆平成29年度 野鳥写真展出展者・作品◆

- 石田 卓也・・・亜種シマエナガ
  - 内山 英晋・・・ルリビタキ、アカゲラ
  - 今堀 魁人・・・ヨタカ、ヤマセミ
  - 小堀 煌治・・・コアオアシシギ、ルリビタキ
  - 齋藤 佑朱・・・ツメナガセキレイ、ヒガラ
  - 齋藤由美子・・・アマサギ
  - 佐伯 武美・・・モリムシクイ、ツグミ
  - 漆崎 修・・・オオソリハシシギ、オオジシギ
  - 品川 睦生・・・メジロ、ヤマセミ
  - 高橋 良直・・・クマタカ、ハマシギ
  - 田中 陽・・・オオヨシキリ、ギンザンマシコ
  - 田向 一彦・・・フクロウ2点
  - 富川 徹・・・アオサギ、オジロワシ
  - 中村 隆・・・トラツグミ、ミサゴ
  - 早坂 泰夫・・・クマガラ、シジュウカラガン
  - 吉中宏太郎・・・シジュウカラガン・ヒシクイ  
ケイマフリ・ウミガラス
- 以上16名 30点

【新しく会員になられた方々】

- 山木 翠子(札幌市西区)
- 門馬 公生(札幌市北区)
- 謝 倩水(札幌市北区)
- 渡辺 義昭・恵(網走市)
- 玉置 顕(奈良県生駒郡斑鳩町)
- 嶋崎 太郎(江別市)
- 早川 嘉彦(札幌市厚別区)
- 岩井 幸子(札幌市東区)
- 佐藤 香織(札幌市東区)
- 小野寺まゆみ(札幌市手稲区)
- 中井 雅彦(兵庫県明石市)
- 吉田 浩行・奈緒美(岩見沢市)
- 長瀬 瑞穂(札幌市南区)
- ほか1名(匿名希望)

【北海道野鳥愛護会】 年会費 個人 2,000円、家族 3,000円(会計年度4月より)

郵便振替 02710-5-18287

〒060-0003 札幌市中央区北3条西11丁目加森ビル5・6階 北海道自然保護協会気付 ☎(011) 251-5465

HPのアドレス <http://www.aigokai.org>